

生物多様性ふくおか指標（仮称）選定にあたっての視点と区分

●指標選定の視点

【S指標・R指標に共通する視点】

視点① 市民への分かりやすさ

専門的な内容に隔たらず、一般市民にとって理解しやすい内容かという視点で評価する。

視点② 福岡市らしさ

和白干潟、野鳥公園等、生物多様性における福岡市内の特徴的な自然等を表現できているかという視点で評価する。

視点③ 算定・更新が容易

算定に当たって複雑な計算が必要ではないか、現実的にデータを取得することができるか、定期的な更新が可能かという視点で評価する。

【S指標に関する視点】

視点④ 既往計画との整合

国の計画、福岡市の既存計画、および生物多様性ふくおか戦略に示された将来像と整合しているかという視点で評価する。

視点⑤ 自然環境調査を活用

これまでの自然環境調査結果を十分に活用することが出来るかという視点で評価する。

【R指標に関する視点】

視点⑥ 生物多様性の保全・利用への効果が高い

内容が具体的であるか、生物多様性との関連性が理解しやすいかという視点で評価する。

視点⑦ 進捗が見込める

継続的な取組みが期待でき、次の評価を行う10年後に確実に進捗が見込めるかという視点で評価する。

視点⑧ 生物多様性の社会浸透に貢献する

生物多様性の重要性を広く市民に理解してもらえる内容かという視点で評価する。

●指標を作成する区分

生物多様性とは、自然面だけでなく、人の社会活動にまで及び、非常に多岐の分野に渡っている。そのため、生物多様性ふくおか戦略では将来像や今後重点的に取り組む点等について、いくつかの区分を設けている。

○戦略で設けた区分

◆目標

- 生物多様性の保全（生物多様性の健全性）
- 自然の恵みの享受（生態系サービス）

◆基本的方向（重点的に取り組む点）

- 社会への浸透
- 生物多様性の保全
- 恵みの持続可能な利用
- 文化の継承
- 多様な主体や地域との連携

◆地域特性区分（自然特性）

- 海洋域
- 島しょ部
- 内陸部（市街住宅地域）
- 沿海部（自然的地域）
- 沿海部（中心市街地・港湾地域）
- 内陸部（里地里山・田園地域）
- 内陸部（山地・丘陵地域）
- 河川部